TEIKOKU DATABANK Historical Museum 2014.12

帝国データバンク史料館だより [ミューズ]

温故知 和

雑誌専門図 書館が果た**し** 専務理事 役割 現代的意味

《逸品解 題》

事業所の あった街をたずねて~

| 古きをたずねて知に挑む人

は時代を写し取る

公益財団法人大宅壮一文庫 専務理事 糸川 英穂さん 〜雑誌専門図書館が果たしてきた役割と現代的意味〜

ジャーナリストで編集者の扇谷正造さんな 後マスコミの三羽ガラスと讃えられた、 や社会評論で知られる草柳大蔵さんや、戦 生み出しています。ルポルタージュの著作 り、「一億総白痴化」「恐妻」「男の顔は履歴書 ミ界で活躍した彼は新語造りの名人でもあ である」など、時代を表わす数多くの新語を 阪府に生まれました。評論家としてマスコ 大宅壮一は1900(明治33)年9月、大



糸川 英穂さん

幼少時からの辞典・事典好きが高じ出版社で百科事典編集に携わった後、1973年に財団設立間もない大宅文庫に転職 図書館界で初めてファクシミリによる複写送信サービスと記事索引検索サービスを手がけた。 また30万枚を超える「索引カード」から『大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録』を企画刊行。 その後、索引 CD-ROM 版を経てウェブ検索データベースを構築し、国内の大学・公共図書館に提供。 2007年から広く海外にもサービスを拡大しつつ、クールジャパンと称される日本のサブカルチャ -情報を発信し続ける 1978 年からリーダーを務め、2003 年から現職。

> ど錚々たる人たちが、大宅壮一の下で修業 をしていました。

■雑誌に時代を見ていた大宅壮一

惜しみなく開放していた資料室は、彼の没 る。さらに雑誌が面白いのは、いろいろなネ 書館「大宅壮一文庫」として開館しました。 後7(昭和46)年5月、日本初の雑誌専門図 いて、雑誌以上の資料はない」と語っていま だ。多角的な視点でつくられている点にお タをいろいろな書き手が執筆していること か、どんなことが流行していたのかがわか ている。雑誌をめくると、当時何があっ 行本の3つがあるが、自分は雑誌に注目し した。そうして集めた雑誌は17万冊。自ら 「雑草文庫」と呼び、収集した雑誌を知人に 生前、大宅壮一は「資料には新聞 、雑誌、

どがリピーターでした。彼らは大宅文庫と 秘密にしていたのです。その後、メディア等 と称されたほど、しのぎを削っていたジャー わなかったとか。俗に「生き馬の目を抜く」 が、ジャーナリストで占められ、そのほとん 万人の方にご利用いただいています。 で紹介されるようになり、今では年間で約10 ナリストの皆様は、自分だけの情報源として いう図書館があることを、会社に帰っても言 初年度の年間利用者数は472人でした

分類しているのか、どういう雑誌がお客様 庫に見学に訪れました。どのように雑誌を ら、雑誌を集める図書館はありませんでし まがありません。 バイスさせていただいたことは枚挙にいと に喜ばれているのか、といったことをアド 全国の図書館から司書の皆様が頻繁に当文 た。その後、雑誌収集の機運が盛り上がり、 当時は図書館の蔵書は書籍中心でしたか

|特異な分類が最大の魅力

法」にそって本が分類されています。しかし 般雑誌の記事分類にはそぐわないため、 在、日本の図書館では「日本十進分類

ています。 事を一つひとつ採録し、索引として整理し当文庫では「大宅式分類法」によって雑誌記

作らせたのが始まりです。人物は「人名索 類法では、時代によって変えることはでき が、全体としては増え続けています。十進分 追加されます。廃止されるものもあります ます。これらの項目は時代によって新しく な、図書館分類ではあり得ない項目もあり 他に「おんな」とか「奇人変人」というよう は33に分類され「政治」「経済」「世界」などの 引」、事柄は「件名索引」として作成しました。 書籍の一つひとつの記事から索引カードを のにならない」という方針で、書生に雑誌や に分類整理する費用をかけなければ使いも めても、それを保存する費用と、使えるよう 宅壮一創案の索引システムでした。「本を集 に立つ」と考えていました。「ゴミため」を て、今はもうゴミための中にあるものが役 る本は集めない。一時、大衆に圧倒的に受け ものだ」「僕は図書館にあるような権威のあ 「宝の山」に変えたのが、1枚のカードと大 件名索引は当文庫最大の特徴で、大項目 大宅壮一は「本は読むものではなく、引く

リーを作り始めたきっかけなのです。するということが、大宅壮一がライブラ

います。 誌を継続して担当し、1件ずつ記事タイト 刊誌だと100件を超えます。主な雑誌約 どの薄い雑誌でも1冊あたり、人名・件名 まり°『AERA』や『News week』ほ の雑誌と7万冊のノンフィクション書籍を ワードを付与するなど手作業で採録して ルを入力した上、分類項目や検索キー 400誌について、職員が一人あたり約20 合わせて6件ほどの記事を採録します。週 は約14万人269万件、件名索引は345 など多岐にわたります。索引では、人名索引 ファッション誌、タウン誌、地方誌、科学誌 合誌、経済誌、業界・PR・広報誌、女性誌、 所蔵しています。雑誌は一般週刊誌から総 万件で、索引総件数としては614万件あ 現在、およそ1万種類に及ぶ雑誌75万冊

百科事典のような図書館■目指すのは

ました。私としては時代性だけではなく、百イブラリーにしたいと折に触れて語ってい大宅壮一は、その時代がわかるようなラ



化でした。
化でした。

小事典のように森羅万象の情報が網羅されている図書館、「エンサイクロペディック・でいる図書館、「エンサイクロペディック・ないる図書館、「エンサイクロペディック・



1990(平成2)年に索引の入力を始いのでは、で瞬時に対応できるようになってもいっような細かいキーワード設定により、お話企業」「最近人気の行列のできる店」というような細かいキーワード検索は格段にスピードアップしました。「政治家の問題発言」「伸びる企業」「老舗企業」「最近人気の行列のできる店」というような細かいキーワード設定によって情もない。

いう点では、請求された雑誌を1分でも早です。また、お客様サービスでのスピードとでが、お客様が求めるものにお応えする形では国立国会図書館、公立図書館、大学図書では国立国会図書館、公立図書館、大学図書では国立国会図書館、公立図書館、大学図書です。また、お客様サービスである。今でサービスの維持費や設備費は過重な負担でしな的補助のない一財団にとって、データ公的補助のない一財団にとって、データ

います。
います。
います。

■自由な発想の雑誌図書館

大宅壮一文庫というとマスコミやジャー大宅壮一文庫というとマスコミやジャーが、近頃は一般企業の広報担当の方や、マーケティングリサーチの方が利用されることないコンテンツがありますので、マーケケィングから企画立案、トレンドの分析なないコンテンツがありますので、マーケティングから企画立案、トレンドの分析など、「ネタになりそうなもの」が見つかります。それでも全体の利用はわずか数%。企業関係の方にもう少しご利用いただければというの方にもう少しご利用いただければというの方にもう少しご利用いただければというとで、一般企業向けのサービスをスタートする予定です。

大宅式分類法の索引で検索すると、その大宅式一文庫の強みであり、誇りとする記事と否定する記事、さまざまなレベルる記事と否定する記事、さまざまなレベルる記事と否定する記事、さまざまなレベルンの結果とはまるで違う。熟練の目と手によって採録された柔軟性が、データを自動よって採録された柔軟性が、データを自動よって採録された柔軟性が、データを自動ない幅の広さをもたらしています。これこそが大宅壮一文庫の強みであり、誇りとするところです。

現在、ウェブで検索できるのはインデッカスまでです。今後は、採録する雑誌ももったにご利用いただける雑誌図書館として、方にご利用いただける雑誌図書館として、方にご利用いただける雑誌ともったができるのはインデッ

企業の歩みを語る上で欠かせない「もの」がある。

4

原点でもあり、象徴でもある「もの」を残し、

第5回は「彩る」をテーマにお届けする。 伝えてきた企業博物館にとってこの一品はまさに逸品である。

懐中化粧道具一式(紅板・紅筆・白粉刷毛)

江戸時代末~明治時代初期【伊勢半本店 紅ミュージアム所蔵】

ささやかな奢侈を懐中に忍ばせた 女性の美子意識

が使っていたと考察される。 う二種類の刷毛がつけられている。凝った 刷毛は、塗る部位によって使い分けられるよ 具で筆の部分が収納できる。毛先にはわず 紅入れ。紅筆は柿の葉の細工が施された金 らった、携帯用の化粧道具セットである。紅 装飾が施されていることから、富裕層の女性 かに紅の色が残っているのがわかる。白粉 板は、外出時に持ち歩けるようにつくられた 金メッキにエンボスで柿の文様をあし

うかがえる もこだわりを持つと でつくられるものも 具はオーダーメード いう、美意識の高さが 多く、化粧道具自体に このような化粧道

白粉刷毛



艶蝶棒紅とお猪口形の本紅「艶蝶小町紅」

大正期~昭和初期【伊勢半本店 紅ミュージアム所蔵】



唇の粧いは

「紅をさす」から「紅をひく」へ

紅を発売している。 ても口紅といえば、お猪口の形の「本紅」だった。17(大正6)年、紅をスティック状にかためた「棒 には欧米の口紅も輸入・販売されていたものの、使う女性はごく一部に限られ、大正時代になっ 紅」が登場した。伊勢半でも当時、現在の「キスミー」の前身にあたる「艶蝶」というブランドで、棒 女性の口もとを彩る口紅といえば、古来日本では「本紅」が使われてきた。1908(明治4)年

は、中身はもちろんのこと外箱の仕様もデザインも異なっている。 鳳凰の意匠が描かれた外箱の紅は、皇后陛下に納めた品と伝えられる。 隣にある一般小売品と ティック状の口紅に変わっていく過渡期にあたり、伊勢半ではお猪口形の本紅も発売していた この時代は筆や指先に取って唇に控えめにさす紅から、唇全体にしっかりひく欧米式のス

Muse vol.24

ゾク(麻の束)

【伊勢半本店 紅ミュージアム所蔵】

唇を彩る最高の紅を抽出

くられている。 度の高い赤を抽出する道具で、麻を束ねてつ 漬けて何度も染付けと絞りを繰り返して純 ぬ製法を守り続けている。ゾクとは、紅液に 伊勢半の紅づくりは、創業当時より変わら

部しか記録することができない。 げられている。紅をつくる紅場は現在でも こと、婦人が入ってはならないことなどが掲 体を清めることや、寒中の丑の刻に製造する 質を守るために家訓を定めており、製造前に れる、紅屋の秘伝中の秘伝である。さらに品 部が制限されており、ゾクを使う工程も 紅の製法は一子相伝、代々口伝で受け継が

2005年、伊勢半は最後の紅屋として紅

半本店紅ミュージアムを である 料を残せるかが今後の課題 ら、どれだけ紅づくりの資 開館。アーカイブの観点か 伝えることを目的に、伊勢 の文化や技術を後の百年に



刷毛·糊桶 【屏風博物館所蔵】

空間をしつらえる 屏風に欠かせない道具類

げて折り畳めるように仕立てた屛風は、日本独自の調度品である。 屛風は「風を屏(ふせ)ぐ」、す 鑑賞する美術品に発展する。 なわち風よけとして寝殿造りの室内で用いるものだったが、やがて高名な画家に絵を描かせて 屏風は7世紀頃中国から伝わったとされるが、扇(せん)と呼ばれるパネルを紙の蝶番でつな

減少しており、プラスチック製の柄も登場している。 が人の手でしっかり縫い閉じてあり、軽くて使い勝手が良いのだが、今では刷毛をつくる職人も なる。職人は工程によって様々な刷毛を使い分けるのである。手づくりの刷毛は柄と毛の部分 い道具が刷毛と糊である。刷毛は用途によって形、大きさ、毛の種類、密度、厚さ、長さがすべて異 屏風の絵の下には何層もの紙が貼られており、これらを下貼りというが、この工程に欠かせな

代わられている。 示している。 こうした木製の桶は今ではほとんど使われることはなく、プラスチックのトレーに 下貼りに欠かせないもう一つの道具が糊桶で、当館では先代が実際に使用していたものを展

れば、美しい屏風づくりも成り立たないので た道具もある。道具をつくる職人がいなけ 昔からの道具もあれば、時代とともに変わっ とあわせて道具類も数多く展示している。 屏風博物館は、完成品としての屏風の展示



伊勢半本店 紅ミュージアム

■TEL:03-5467-3735

■東京都港区南青山6-6-20 K's 南青山ビル1F

■http://www.isehanhonten.co.jp/museum/



■TEL:03-3622-4470

1937(昭和12)年【真珠博物館所蔵】

真珠博物館

- ■三重県鳥羽市鳥羽1-7-1(ミキモト真珠島内)
- ■TEL:0599-25-2028
- ■http://www.mikimoto-pearl-museum.co.jp/

世界中の女性を 部品の分解・組立により、帯留を基本に12 珠で飾ることを望む第一歩

期を代表する、ジュエリーの逸品である。 の地であるミキモト真珠島に戻った。昭和初 ヨークのオークションに登場。真珠養殖誕生 販売され、行方不明になった後、89年、ニュー リー。1937年のパリ万国博覧会に出品後 通りの使い分けができる多機能ジュエ 吉は、時をおかず海外の市場を視野に入れた 養殖に成功したミキモトの創業者、御木本幸 1893 (明治26)年、世界で初めて真珠の

品していた。豪華な作品を世界各国の博覧会 へ出品し、養殖真珠の美しさを広めることに 活動を展開。博覧会や展覧会には積極的に出

努めたのである。





ブローチ

髪飾り





6 Muse vol.24

宝石の文化・技術・歴史を の荒波にもまれながらも、

次代へつなぐ



天秤ばかりとカロブ豆、さや

乾燥したカロブ豆は、宝石の重さを 量る際に分銅代わりに使われていた

> ドップ付き古いトング 手の感覚だけでダイヤモンドを 研磨する道具。 現在はオートメーション化 されているが、一部で今も使われている 電子天秤 現在はデジタルのはかりで 宝石の重さを計測する

> > 代、人々は勾玉や耳飾りなどの装飾品を身に 着けることが一般的となりました。縄文時

日本では、洋装が定着してから宝石を身に

化になり、欧米のような発展を遂げませんで

れたのです

した。日本における宝石の文化はまだ新しい

着けていたことがわかっていますが、

、着物文

に左右されやすい宝飾業界に冬の時代が訪

機関の1つです。 では比較的早い時期に設立された宝石鑑別 石の鑑別・グレーディングを目的として日本 中央宝石研究所は1970(昭和45)年、宝

ミュージアム構想を持つようになります。そ 並木正男は、宝石の健全な売買や流通のため を回って、宝石の啓蒙を行っていた創業者の されていました。顕微鏡や機材を担いで全国 鑑定の基準がなく、販売側の信用のみで売買 こから、歴史上有名なダイヤモンドのレプリ てもらえる場所をつくれないかと考え、 設立したのです。また、宝石の知識を得られ 考に独自の鑑別法を確立させるべく当社を る場も少なかったことから、気軽に立ち寄っ になっていく一方で、当時の日本には鑑別 枠組みづくりを行い、海外のシステムを参 高度経済成長時代、宝石が人々の間で身近



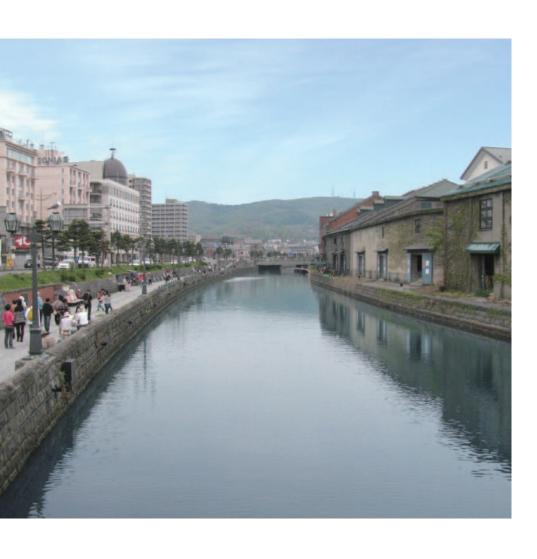
株式会社中央宝石研究所 技術管理室 米丸 晃代氏

年をもってミュージアムは閉館。景気の動向 くの方にご来館いただきましたが、2004 装身具史年表、アントワープの歴史とダイヤ 研磨加工技術の歴史、世界のダイヤ産地、ダ としては日本で唯一でした。開館にあたって ジアム」をオープン。ダイヤモンドの博物館 修学旅行生や親子連れ、宝飾関係の方など多 ショップや特別企画展も開催していました。 した展示室をつくり、お子様向けのワーク モンド産業のコレクションなどをテーマと きました。館内はダイヤモンドの誕生・採掘 ヤモンドミュージアムにも協力していただ は、ベルギーのアントワープにある州立ダイ ト、近代工業利用、アンティークジュエリー イヤモンドのカット、グレーディングレポー 97年、東上野に「東京ダイヤモンドミュ

ウェブ上に「ダイヤモンドミュージアム」を 開設しました。時間や住んでいる地域に関係 かっていきたいと考えています。 なくアクセスしていただけるので、今後はス きたいという思いは変わらず、2010年 マートフォン対応も含め、サイトの充実をは しかし、それでも宝石への理解を広げてい

すまされた感覚が不可欠で、変わらずに受け りません。研磨工程の中でも機械化・デジタ 磨くことができるのは、ダイヤモンドに他な 伝えていきたいと考えています。 継がれていくものもあります。そういったダ ル化したものもあれば、研磨職人さんの研ぎ イヤモンドに関連する歴史や知識を次代へ もっとも硬い鉱物であるダイヤモンドを なものを集めました。

カやアンティーク、古い道具など、いろいろ





かつて小樽は人材・資金・物資が集まる、その道は運河、港へと続いている。小樽駅の駅舎の前にはゆるやかな下り坂があり、

帝国興信所も、札幌より25年も早く、道内では函館に次いで北海道最大の商都であった。

2番目にこの地に事業所を開設していた。

長い歴史にピリオド事業所閉鎖

2001年10月、小樽支店は89年間の歴史を閉じた。1994(平成6)年に小樽支店長に着任した岩崎耐輝さんは、その時の様子をこう話す。「わたしが着任する前から、小樽はです。小樽から金融機関が次々に撤退、北海道では。小樽から金融機関が次々に撤退、北海道でした。小樽支店は永倉新八のご威光が生きでした。小樽支店は永倉新八のご威光が生きでした。小樽支店は永倉新八のご威光が生きでした。小樽支店は永倉新八のご威光が生きでした。小樽支店は永倉新八のご威光が生きでした。小樽支店は永倉新八のご威光が生きでした。小樽支店は永倉新八のご威光が生きでした。小樽支店は永倉新八のご成光が生きでした。小樽支店は永倉新八のご成光が生きに行くと皆さんから、今までいたのになぜ?

どってきたのだろうか。 衰退した小樽。この町は、どのような歴史をた明治から大正にかけて繁栄し、昭和になって

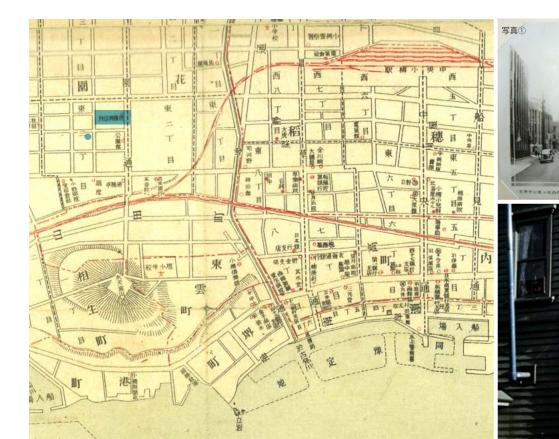
道と命名、同時にオタルナイも小樽となった。

1869(明治2)年、新政府は蝦夷地を北海

■近代日本の夜明けとともに

小樽という意味を持つオタルナイに由来する。川」という意味を持つオタルナイに由来する。 川」という意味を持つオタルナイに由来する。 川」という意味を持つオタルナイに由来する。 川」という意味を持つオタルナイに由来する。 川」という意味を持つオタルナイに由来する。 川」という意味を持つオタルナイに由来する。 川」という意味を持つオタルナイに由来する。 川」という意味を持つオタルナイに由来する。 川」という意味を持つオタルナイに由来する。

Muse vol.24 8





供給の中継点になったことから、北海道の物流 て、活況を呈した。 日本で3番目となる鉄道が開通する。 政府が小樽銭函に開拓使仮役所を設置し、物資 港湾と鉄道の整備により、海陸運輸の拠点とし には、石炭積み出しのために小樽-中心地として位置づけられる。さらに80年 -札幌間に、 。小樽は

もの銀行が軒を連ねるようになり、「北の ウォール街」と呼ばれるようになる。 を皮切りに、財閥系銀行をはじめとする20以上 拡大し、資金需要により金融が活発化。 盛期のこの時期であった。 所が小樽支所を開設したのは、まさに小樽の最 小樽・色内地区に派出所を開設した日本銀行 日露戦争後は樺太や沿海州方面との貿易が 帝国興信 93 年 に

②1965年当時の小樽支店

①昭和初期の絵はがき[所蔵:小樽市立図書館]

と、金融街そのものでしたね」と語る。 形交換所や穀物取引所も軒を連ね、今考える た人が歩いているのをよく見かけました。手 に行くと、パナマ帽をかぶりステッキを手にし いて「子どもの頃、祖父に連れられて日銀通り イトウ製作所を営む伊藤一郎さんは、 小樽で創業して1世紀以上の歴史を持つ、旗 、小樽につ

地元の有力者を迎えて 業所開設

されている。杉村は、新撰組の副長助勤、 付の『帝国興信所内報』によると、支所には杉 割烹、ホテル、土建業、芸者置屋、葬儀業、新聞 事業を手掛けており、業種も薬屋や映画館 樽支所長に就任する以前から地元で多くの かけて活躍した気鋭の地元実業家だった。小 新八の長男であり、小樽黎明期から最盛期に 村義太郎所長以下5人の所員の名前が記録 取次と多岐にわたっていた。 ·樽支所を開設した。13(大正2)年1月1日 912(明治45)年1月、帝国興信所 、永倉 は

を開設したという記録が残されている。花園 海道小樽区花園町14に帝国興信所が出張所 年3月2日付の『小樽新聞』によると、北

> 立図書館など官公庁や飲食店が並ぶ、市の中 地区は現在も市役所や札幌地裁小樽支部 であった。 を構えていたのは、 心地に事業所を移している。最後に事務所 職した後は、堺町、色内地区と金融経済の中 振を理由に、半ば更迭される形で杉村が退 のだろうか。事実、後に小樽支所の業績不 杉村が、1つの地区に事業を集中させていた の裏手であることがわかった。実業家だった そこは、杉村が経営していた映画館「公園館 街であった。さらに調べてみると、はたして ねてみると、地区の中でも娯楽色の強い歓楽 心部である。かつて花園町14だった場所を訪 旧 三井銀行小樽支店ビル 市

り返すうちに、倉庫の片隅に置かれたまま、 なっている。 の帝国興信所を知るうえで貴重な資料と の小樽の繁栄を物語るとともに、創業期 忘れられていたのだという。これらは往年 書庫から見つかっている。事業所の移転を繰 までの、後志管内の企業調査報告書が支店の 93(平成5)年には、12年から45(昭和20)

|坂と運河のある観光都市として 再び脚光を浴びる

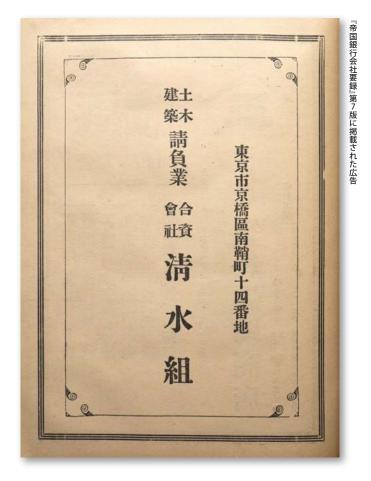
運河論争の結果、現在の姿になり、 観光都市としての新たな一歩を踏み出した。 小樽運河もその役割を終え、十数年に及ぶ を失い、北海道の中心が札幌に移っていく。 金融恐慌や海外との交易の途絶などで商圏 数の港湾都市であった小樽だが、 北の商都としての中枢を担っていた、 北海道経済・金融の中心であり、 その後は 小樽は 日

造りの倉庫群は、歴史を伝える観光資産と して、今の小樽を支えている。 厚な造りをしたかつての銀行、 レンガや石

帝国データバンクの出版物は創業以来、 幾多の企業広告を掲載してきた。100年前と比較して、 広告はどのような変遷をたどったのだろうか。

広告いまむかし-5

清水建設



1918(大正7)年発行の『帝国銀行会社要録』第7版には、清水組(現・清水建設)の広告が掲載されている。清水建設株式会社コーポレート企画室の浅川玲さんは「当社としても、このような信用録に広告を出すことは社会的な信用を得ることにもなるので、意義のあることだったのではないかと思います。今で言うBtoBの業態でしたから企業経営者が多く目にするという点で、広告を出す媒体としては良かったかもしれません」。同、畑田尚子さんも「当社は、お客様に細かく目を配り御用聞きに回りながら、仕事を請け負うという会社でしたから、企業のトップに社名と事業内容が認知されることを重視した広告なのでしょう」と分析する。

清水建設の創業は1804(文化元)年、宮大工であった初代清水喜助が江戸で清水屋を開業したことに始まる。1915年、合資会社清水組に改組しているが、畑田さんによると「その時期は店主も代わりましたので、広告掲載にも何らかの目的があったのかもしれませんが、記録が残っておらず、詳細は不明です」。

一方、広告が掲載された18年は、帝国興信所の本社ビルが竣工した年でもある。初めての自社ビルとなったこの本社ビルに加え、関東大震災後に再建した本社ビルも、清水組によって手がけられた。こうしたつながりからか、その後30年以上にわたって、広告の掲載が確認できる。会社名、本店・支店・出張所の所在地のみというシンプルな構成もほぼ踏襲されている。

清水建設は、常に新しいことにチャレンジしてきた歴史を持っているという。特に建物と建築については、先進技術を使って近代建



築を手がけ、完成すると「竣工広告」を打ち出していた。同、伊藤篤さんは「改組して近代的な会社組織になった当時から洋風建築を得意としていたこともあり、外資系企業向けの広告も展開していました」と語る。

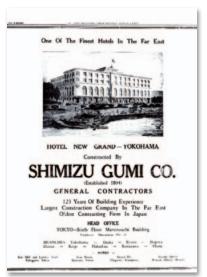
現在展開しているのは、広く社会全般に向けたブランディング活動の一環として2008年から続く企業広告である。「"子どもたちに誇れるしごとを。"というコーポレートメッセージを打ち出しながら、6年目の今年はグリーンフロートという、太平洋上の赤道直下に5万人が住める島をつくる未来構想をモチーフに、未来に向かって

チャレンジする当社の姿を PRする内容になっていま す」(伊藤さん)。

対企業向けに信用を築く 企業姿勢を打ち出す100年 前の広告と、未来志向の現 在の広告。しなやかな変化 に、創業200年を超える企業 ならではの底力を見た。

1927 (昭和 2) 年 12 月 1 日付の 『The Japan Advertiser』に掲載された、 横浜にあるホテルニューグランドの 竣工広告。

[所蔵:清水建設株式会社]





テーマ展示 「TDB情報最前線『日刊帝国ニュース』創刊50年の歩み」開催中



常設展示室「テーマ展示」コーナーでは、現在「TDB情報最前線『日刊帝国ニュース』 創刊50年の歩み」を開催しています。

1964年4月、帝国データバンクに情報部が誕生しました。情報部の創設から程な くして創刊した倒産情報紙『日刊帝興情報』は、正確性と速報性、そして質の高さ を追求し、全国の企業に与信管理の警鐘を鳴らしてきました。

誕生秘話から情報収集の極意まで、50年を越える足跡をパネルとデジタルコンテ ンツでご紹介します。

期間:2014年9月2日(火)~2015年3月31日(火)

『別冊 Muse 2014』を刊行

帝国データバンク史料館は、2014年9月に『別 冊 Muse 2014』を刊行しました。

本誌は、「情報と資料~越える、渡る、広がる~」 をテーマとし、情報、資料、そして人が、海を渡っ て国境を越えて繋がっていくことの必要性、重 要性、直面する課題について様々なジャンルの 方々に語っていただきました。



入手ご希望の方は、

電話(03-5919-9600)かメール(shiryokan@tdb.co.jp)にて 帝国データバンク史料館までお問合せください。

『別冊 Muse2014』 - 情報と資料 - 越える、渡る、広がる

◇巻頭インタビュー 萱野志朗さん

「わが国先住・少数民族の文化とこころ~記録を残し、資料を守り、言葉を紡いで、次代に伝える~」 ・「萱野茂二風谷アイヌ資料館」館長 学芸員 アイヌ民族文化研究家 萱野志朗

「記録は誰のものか、海の向こうの史料を訪ねて」

・高千穂大学経営学部教授 大島久幸

◇クローズアップ -

「情報と資料利用の在り方をいまに問う~占領期新聞・雑誌資料(プランゲ文庫)を事例に~」

・一橋大学名誉教授 早稲田大学名誉教授 NPO法人インテリジェンス研究所理事長 山本武利×フリージャーナリスト 田口嘉孝

「"大学と戦争"アーカイブズ〜学徒出陣の記憶を記録する活動〜」 ・慶應義塾福澤研究センター准教授 都倉武之×帝国データバンク史料館学芸員 後藤佳菜子

「中国における資料保存・管理のこれまでとその成果」

・中国国家档案局経済科技档案業務指導司 司長 王嵐×帝国データバンク史料館館長 高津隆

「私のアーカイブズへの尽きない想い~学芸員はただ今、育休中!~」

・企業文書館学芸員、アーキビスト 中臺綾子

「たばこと塩の博物館 新たな出発をめざして」

・たばこと塩の博物館学芸員 鎮目良文

「移転奮闘記・逓信総合博物館から郵政博物館へ」

・郵政博物館学芸員 本間与之

◇異色対論・

「渡って、越えて、見て、触れて、感じて、学ぶことの意味」

·新潟大学特任教授、同大学災害·復興科学研究所前所長 丸井英明×東洋英和女学院大学 専任講師 町田小織

「隠す、捨てる、作らない…~海外日本研究者が見たわが国情報管理の現実~」

・カリフォルニア大学サンタバーバラ校教授 ローリー・アン・フリーマン×フリージャーナリスト 岩瀬達哉

◇Talk Session 白熱メッセージ -

「海を渡り、国境を越えて、繋がることの意味と価値」

- ・公益財団法人渋沢栄一記念財団実業史研究情報センター 松崎裕子
- ・国際日本文化研究センター情報管理施設資料課<図書館>資料利用係長 江上敏哲
- ・学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻博士前期課程在籍、東芝未来科学館広報・アーカイブ担当 金甫榮
- ・トヨタ自動車株式会社渉外部主査 前広報部グローバルコミュニケーション室主査 布施直人

◇Muse Special Guest 李向罡さん

「日中アーカイブズの架け橋として生きる」

·中国档案学会理事、研究館員 前中国国家档案局政策法規研究司副司長 李向罡

Muse vol.24

TEIKOKU DATABANK Historical Museum Vol. 24



表紙のご案内

創業三十周年記念式典記念品「扇子」清浦奎吾 揮毫

1930(昭和5)年、創業から30周年を迎えた帝国興信所は、 5月28日に両国国技館で記念式典を行った。その際参会者に 記念品として配られたのがこの扇子である。「至誠努力」と揮 毫した清浦奎吾は、式典で創業者後藤武夫に対し、「30年前、 君の事業に対し少なからぬ危惧の念を抱きました私は、30 年後の今日に於て、その成功を祝福すると共に、当年の危惧 が全く一片の杞憂に過ぎなかったということを思いまして、却 ってこの上もなく愉快に存ずる次第であります。」と祝辞を述 べている。

一一タバンク史料館

〒160-0003 東京都新宿区本塩町22-8 TEL.03-5919-9600 (直通)

ご来館の際は、1F受付にお越しください。

[入館料] 無料

[開館時間] 10:00~16:30 (入館は16:00まで) [休館日] 土・日・月曜日および祝日、年末年始

(その他展示替えなどのため、臨時に休館することがあります。)

[JRご利用] 中央線・総武線 市ケ谷駅 徒歩8分

中央線 四ツ谷駅 四ツ谷口から徒歩9分

[地下鉄ご利用] 南北線・有楽町線 市ケ谷駅 7番出口から徒歩6分

都営新宿線 曙橋駅 A4番出口から徒歩9分

丸ノ内線・南北線 四ツ谷駅 2番出口から徒歩9分

ご来館の際には館内のご案内、ご質問など、お気軽にお申し越しください。 なお、当館ホームページで展示内容や最新ニュースなどをご紹介しています。

www.tdb-muse.jp